

### 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0170401129		
法人名	株式会社ハウジングいとう		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	札幌市西区発寒4条2丁目3-12		
自己評価作成日	平成24年6月27日	評価結果市町村受理日	平成24年8月23日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401129&amp;S-CD=320&amp;PCD=01">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401129&amp;S-CD=320&amp;PCD=01</a>
-------------	---

2階ユニットでは開設9年目にして、利用者の高齢化に入り、身体レベルが低下してきた時期であります。その間、日々の地道な機能訓練があり、9年間維持できた思いでいます。また日頃の努力が、ご家族に理解して頂ける結果となり信頼関係へと繋がっていることを実感しています。継続しての地域の行事参加時は、町内の方も気軽に接していただき、ご配慮頂くことで地域の一員として支えられています。地域の文化祭の出展作品は、利用者と共に力を合わせ楽しみながら作ることができ、展示会場で観賞した時には、喜びもひとしおでした。昨年10月利用者の皆様に実施したアンケートでは、喜びも楽しみ事も職員が大きな存在であることが分かり、仕事をしていく上での励みとなり、利用者のため、より一層頑張りたいと云う気持ちが湧きました。一人ひとりを大切にしたり個性を発揮することで、返って自己主張が強くなり、トラブルへと発展し、難しい面も見られていますが、出来る限り個性や価値観を尊重するように努めています。毎月理念に基づき振り返りをしながら、業務に反映できるよう取り組んでいます。利用者のレベル低下が見られる今、尚一層の介護力が必要とされており、より良いチームケアを目指さなければと再認識しているところです。日課の体操の中に、嚙下体操を取り入れたり、歌を唄うなどで、心身両面に働きかけるよう試み、とにかく職員が明るく元気をモットーにしています。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年7月22日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に開設した2ユニットのグループホームです。管理者をはじめ職員は、理念を根底に、入居者個々の尊厳を保持して常に見守り、寄り添うケアを目指し、毎月理念に基づく取り組みの話合いをしている。訪問時には、耳に優しい楽しい会話が聞かれ、入居者が笑顔でのお出迎えや、コーヒーを出してくれるなど、生活の一部を見ることができた。入居者へのアンケートの実施やレクリエーションの工夫、音楽療法やフットマシーンを取り入れるなど、生活機能の向上に努めている。職員研修では、毎月のように緊急時の対応や救命措置など、マニュアルに沿って体験実践で確認するなど、内部研修に力を入れている。町内会行事には入居者が一住民として歌の披露や作品の展示など積極的に参加している。運営推進会議や職員会議などの会議議事録が詳細に記録されており、会議の内容が手に取るように分かる。敷地内には菜園があり、入居者とともに苗植えや収穫を一緒にに行い、四季それぞれの収穫を楽しみ、食卓に上ることも多い。代表者、管理者、職員の相互の信頼関係の基に、利用者本位のケアの実践に取り組んでいる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・玄関・居間・休憩室に理念を掲示し、意識に止められるようにしている。 ・毎月、ユニット会議で理念への取り組みについて報告し合い、反省点などを踏まえ、次月へと繋げている。	独自の理念を玄関や居間など見やすいところに掲げている。毎月の会議の際に理念に沿った取り組みの話し合いなどが議事録から窺え、常に意識付けが行なわれている。家庭的な雰囲気大切にしながら全職員が日々実践に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事に参加し、皆さんと交流の機会が持てる。散歩で出会った時は気軽に声をかけてくれたり、挨拶を交わしている。春になると毎年山菜を届けてくれるマンションの住人の方もおられる。	地域の行事に参加し、近所付き合いが行なわれている。地域の文化祭には利用者とともに作成した作品の出品や歌の披露。上階の住民や散歩時に出会う住民との挨拶や立ち話、近隣の商店での買い物等、顔なじみの関係ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・現在特にありません		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・「ひやりはっと」「事故報告書」の経緯、詳細を報告、また、ホームの行事や、利用者の近況を家族にお伝えしている。評価への取り組みも報告し、ご意見をいただいている。	運営推進会議には、町内会、地域包括支援センター、入居者、家族、職員でメンバーを構成している。毎回入居者や家族の参加を得、年6回開催している。詳細な議事録からは、生活状態、ヒヤリハットなど会議の内容が手に取るようにわかり、活発な意見交換が窺われる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・生活保護担当者や包括支援センターの方と入退居情報や個別のケースの相談など協力関係にある。	市や地域包括支援センターとの職員とは質問や相談が生じた場合などに電話で連絡、相談、情報交換など双方で協力関係を作っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・年に一度、外部研修の参加と、定期的な内部研修を実施し、拘束の対象となる具体的な行為について学ぶ機会を持ち、注意を払ってきた。 ・玄関の施錠については、家族から防犯上の問題もあり、同意を得ている。	身体拘束はない。抑制廃止に関する内・外部研修の参加状況からも、意識の高さが窺える。行動を制止されない自由な暮らしや居心地の良い環境づくりで拘束を必要としない状態になっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止法についての外部研修への参加や内部研修を実施し、常に意識下に納めるようにしている。 また、身体の変色などは原因を探り、再発を防いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・毎年外部研修に参加し、職員に制度の理解を深めるようにしている。現在該当者はいないが、必要があれば活用していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・家族の不安や疑問が払拭できるよう説明に努める。介護報酬の改定など、金銭面に関わることは、事前に文章でお知らせし、ご理解いただいた。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・何かあれば直接職員や管理者がお話を伺い、運営推進会議でも家族のご意見は運営の参考にさせて頂いている。 ・家族来訪時には遠慮なく何事でも話していただけるよう、職員全体で努めている。	運営推進会議で家族からの要望を聞いている。面会時も意見や要望を聴く機会としており、玄関前に意見箱を設置している。出された意見には早急に対処し、職員の育成や労務管理にも反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一度のユニット会議、及び代表者との打ち合わせの際、各自の意見を提案できる。それらが必要事項であれば運営に反映させていく。	管理者は毎月の会議時や日常業務中でも職員からケア上の問題や運営面の課題の把握に努め、ケアの向上や運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員数を増員し、業務負担の軽減を図り、働きやすい職場環境に努めている。 ・資格取得を勧め、休日や受験料等応援できる体制がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は職場に於ける職員の動きや声掛けなど観察し、打ち合わせなどを通して全体の把握を行っている。外出行事には運転手や介助員として参加し、介助の一端をになう役割を持って観察している。研修や資格取得も推進している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・区内の管理者連絡会議のなかで、講師を招いた勉強会を催し、参加交流の機会が持てる。 同業者の活動、取り組みなども参考にさせて頂きたくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前に家族から得た情報を基に、本人の不安を払拭できるよう、色々な質問にお答えしたり、話を傾聴していき、安心感を持っていただきます。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初期段階では利用者に対する悩みなどお聞きし、今後の参考にしたり、できる限り不安を解消できるよう説明に努めます。要望にはできる範囲でお応えしますが、他の方とのバランスも考慮していきます。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・お話を伺いながら、どのような支援が必要か推察し、他のサービスを含め、必要な支援を見極めながらご説明します。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者が出来ること、得意とすることを生活の中で発揮してもらい、調理、掃除等一緒にいき、協働している関係にある。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族でなければという事柄もあります。そのような時は、家族と相談をしながら、協力して頂きます。 ・毎月定期的に外泊や自宅へ連れて帰る家族もおられます。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人、知人の来訪の際は、次回の訪問につなげられるよう、歓迎の気持ちを込めた対応を心がけます。	馴染みの関係を大切にしたい支援をしており、知人や友人の訪問やお正月などに自宅への外泊や外出をされる入居者が数名いる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・状況に応じて皆さん合同でレクをしたり、孤立しないよう、少数数での余暇活動も取り入れている。 意思表示が困難であったり孤立している時は、職員が中に入り調整します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院された場合は、経過やお話をお聞きする程度です。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の関わりや会話の中から思いや希望を聞き、汲み取るようにしている。困難な場合は、家族から情報を得たり、本人の立場で推測する。	日常の関わりの中で入居者の表情や言動から思いを察知することに努め、ケアに反映させている。困難な方は表情や反応、家族の情報から把握している。外出、外泊など家族と協力した支援も見られる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・相談に見えられた時、事前訪問の際、家族からお話を伺い、また受けていた直近のサービス事業者から情報をいただきます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・自ら関わりの中から得た情報・事前情報・申し送り・他の職員からの情報等で、一人ひとりの状態や変化を掴んでいきます。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・現場でのアセスメントを基に、介護計画の原案を作成、会議で最終的な確認や調整を行います。家族には事前に希望を確認したり、後にお聞きする場合があります。	センター方式を活用し、本人の思いを大切にしながら介護計画の作成に努めている。アセスメントから計画立案、評価まで皆で話し合い、本人、家族からも希望を伺い、変化があれば随時見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子や変化が個別に記載され、情報を共有し、見直しに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の心身の変化、家族の事情などに応じて、できる限り柔軟な支援が提供できるよう考えている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事や催し物に参加したり、日常的にご近所に買い物に出かけ、地域と協働している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者、家族の希望に応じて、入居以前の病院を継続したり、新たに協力医に変わられたりします。専門的な治療が必要な場合は、継続的に受診している、かかりつけ医をお勧めします。	本人や家族の希望するかかりつけ医の医療が受診できるようにしている。他科受診は家族の通院介助を基本としている。入居者の観察に努め気づきなどを医師に伝えられるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・管理者、職員から1週間の報告や相談を受け、各自の健康チェックを行います。往診日は立会い、変化や心配事などDrに報告したり、指示を受けたりします。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・協力医は、ホームのできる支援、できない支援を理解しており、状態についての情報交換も適時行える関係にある。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居の際に重度化、終末についての説明をし、実際には状態を見ながら今後についての話し合いを進めます。最終的には医師を含め、三者で希望なども含め、話し合いの場を設け決定していきます。	入居時に家族や本人に重度化、看取りに関する説明や事業所のできることで、できないことについて話をしている。状況に応じて家族との話し合いを重ね、医療行為や濃密なケアが必要なときは病院との協力体制を確認しケア内容を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・内部研修で喉詰まり、心肺停止時の応急処置、対応法を職員同志で訓練したり、事故発生時マニュアルを頭に入れ、いざと言う時に備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・夜勤を想定した避難訓練はできる限り月1度実施・災害時の避難場所は、近隣職員宅に依頼・マンションの住人に緊急時の協力要請依頼	避難訓練や自主的訓練を月1回実施し、数多く実施することで避難方法を職員が自ら身につけている。上階の住民との協力関係を築いている。スプリンクラーを設置するなど安全対策が強化されている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・失礼のないよう、会話の内容や声の大きさに注意している。意思疎通が困難な対応が難しい方は、「思いやりを持って」を心がけている。	職員は入居者を尊重しており、声掛けや対応の仕方は穏やかで、入居者に合わせた話し方や、入居者の表情を見て思いを汲んでいる姿勢が読み取れる。個人情報保護に関しても理解している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・意思を表出し、自己決定できるような声掛け、自由な発言できるような環境を心がけ、嫌な事は無理に押し付けないようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個人の希望は直ぐには応じられない場合もあるが、時間を置いて答えている。また、余暇活動は小単位に別れ、個々の好みやペースに合わせた内容を提供している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自分で選ばれる方の中には、好みの物ばかり着ている傾向があります。他の物を勧めたり、アドバイスします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・お手伝いに参加される方が多く、皆さん公平に関われるよう、役割や時間帯をある程度決めていきます。皆さん台所仕事は意欲的で好まれます。	入居者の能力に応じて、調理や盛り付け、後片付けなど役割づくりが行なわれている。職員も一緒に食卓につき、見守りながら、会話が飛び交う楽しい食事風景が見られる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々の食事量の把握は出来ており、水分も一日の飲用量を目安に勧めます。食事や水分に変化があれば日誌報告していき、観察をおこないます。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、歯磨きを実施、ご自分でできない所や不足な部分は介助を行います。就寝時の管理ができない方は、義歯をお預かりします。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄票を活用し、時間をみながらトイレ誘導や声かけを行います。着衣の上げ下ろしや拭き取りなど、ご自分で出来ない所を補います。	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、仕草から尿意を察知したり、それに応じた声掛けやトイレ誘導など排泄自立支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事に野菜を多く取り入れ、水分は十分補うようにしている。散歩やフットマシーンなどの運動も日課に行っているが、腸の働きも低下しており、整腸剤・下剤などでコントロールし便秘予防します。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴の曜日は決まっているが、入る時間帯、順番は他の方と重ならなければ希望に副って行きます。入浴を楽しめるようコミュニケーションを取りながら介助します。	入浴日時間帯は、入居者の希望に沿い、職員と言葉を交わしながら、ゆったりと入浴を楽しむことができるように努めている。拒否の方は無理強いしないよう様子を見ながら、時間や声掛けの工夫など配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その日の様子や疲労感を観察し、臥床を促したり、安心できる声かけを行います。少しの間だけでも傍について不安を取り除いたりもします。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬一覧が手元にある、薬の種類、注意書きなど確認できる。内服薬の変更などは申し送りにより周知され、薬による変化を観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の好きな事、得意なお手伝いや、手先の器用な方は縫い物等、得意分野で活躍してもらおう。散歩や畑に出て、外の空気を吸ってもらおうなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・皆さん外へ出るのを好まれ、お天気の良い日は散歩が日課です。近場の大型スーパーに行き、目の保養をしたり、年に数回は、皆さんがご希望の場所に遠出をします。	その日の本人の様子や気持ちを汲んで散歩を始め、買い物に出かけ、希望者には預かり金を渡して自分で支払う楽しみも感じてもらえるようにしている。職員同士が情報交換しながら外出支援に取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少額を持参し自由に買い物やされている方がいらっしゃいますが、ほとんどの方が紛失したり、管理できず事務所で預かりしています。利用者から希望があればその都度使える体制にあります。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自ら電話を掛ける方は限られており、ほとんどの方は希望もありません。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・職員は季節に応じた作品を考案し、皆さんで手作りのものを廊下などに展示しています。テレビ音、採光などはその時々で調整し、不快を感じさせないよう配慮しています。	入居者と職員のアイデア的共同作品などが飾られ、明るく居心地の良い家庭的な空間作りが行なわれている。入居者はテレビを見たり、おしゃべりしたりとくつろぐ姿が見られる。居間、食堂、キッチンがオープンに続く間取りで、見守りが行き届き安心感が繋がっている。建物全体が明るく事務室も含め整理整頓が行き届いている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・個々に落ち着く場所があって、気の合う方たちでくつろいでいます。疲れたり一人になりたいときは自室で休まれます。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた物を持参されたり、お部屋のスペースに合った大きさのものを新たに購入される場合があります。	居室の前には入居者ごとに工夫を凝らした表札が掲げられている。居室内は入居前に利用されていた馴染みの家具や生活用品、小物類などが持ち込まれ、その人らしい居心地の良い部屋づくりが行なわれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室前にはネームプレート、トイレはトイレマークがあり、室内はバリアフリーで安全面に配慮されています。		